



ASJA International Exchange Workshop for
ASEAN-MEXT Scholarship Recipients and Japanese University Students

令和元年度アスジャ・インターナショナル主催 アセアン国費留学生と日本人大学生との 国際交流ワークショップ

募集要項





写真：2014年度アセアン文化交流事業「アセアン文化祭典」

アセアンとは？

アセアン＝東南アジア諸国連合(Association of South-East Asian Nations, ASEAN)は、東南アジアにおける地域協力機構である。

経済成長、社会・文化の発展、政治の安定などを目的に、1967年の「バンコク宣言」によって設立された。

現在、東南アジアの10ヶ国が加盟している。

＜加盟国＞

インドネシア、マレーシア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ミャンマー、カンボジア、ベトナム、ラオス



アスジャ・インターナショナル主催

アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップ

掲載内容

アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップとは
ワークショップの進め方
グループワーク
ワークショップのねらい
講師紹介
レクチャー
ファシリテーション・学生支援チーム紹介
期待される効果
アスジャ・インターナショナルについて
概要、組織・運営、事業内容
参加者の感想
過去のワークショップの様子
スケジュール
募集要項
実施概要
日本人学生の参加資格および条件
申込方法
アスジャ・インターナショナル事務局への申込書提出締切
問い合わせ先



写真：2018年度開催のワークショップより

Introduction

アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップとは

将来のアセアン各国のリーダー候補としてアスジャ・インターナショナルが受け入れているアセアン国費留学生と、日本のグローバル人材として活躍を期待される日本人大学生が、国立オリンピック記念青少年総合センターにおける3泊4日の宿泊交流を通じ、お互いの国の文化や日本とアセアンの将来の課題、国際協力について、英語による意見交換を行い相互理解を深める。

朝から晩まで英語によるコミュニケーションが続く合宿生活を送ることで、都内にいながらにして留学体験が味わえる。

アスジャ・インターナショナルが2014年度から新規で開催し、2019年度は6回目の開催となる。

参加をリポートしてくれる学生さんもいます！

<過去の参加日本人学生>

上智大学、東京外国語大学、千葉大学、東北大学、筑波大学、群馬大学、慶應義塾大学、早稲田大学、横浜国立大学、津田塾大学、埼玉大学、京都大学、大阪大学、東京大学、東京藝術大学、明治大学、法政大学から132名が参加。

キーワード：

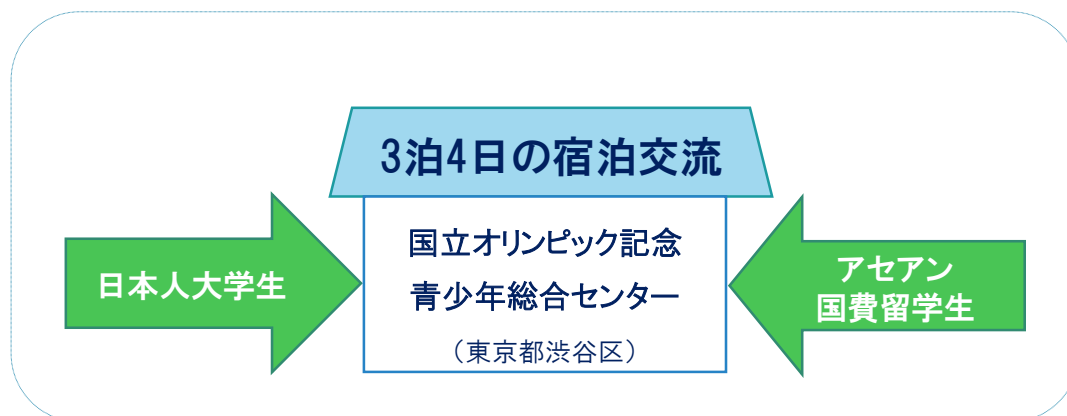
- ✓アセアン国費留学生
- ✓日本人大学生
- ✓アセアン
- ✓東南アジア
- ✓グローバル人材
- ✓合宿形式
- ✓ワークショップ
- ✓英語による意見交換
- ✓相互理解
- ✓アスジャ

アスジャ国費留学生とは？

文部科学省の奨学金を得て日本の大学の大学院・学部で学ぶためにアセアン加盟10ヶ国から来日し、アスジャ・インターナショナルが受け入れている外国人留学生。



アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップとは



- ✓ アスジャ・インターナショナルが受け入れているアセアン10カ国の国費留学生と、グローバル人材を目指す日本人大学生との国際交流
- ✓ 国立オリンピック記念青少年総合センターでの英語合宿
- ✓ 日本・アセアンをテーマに行うディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション
- ✓ 都内にいながらにして味わえる留学体験
- ✓ お互いの国の文化、各国の将来や課題、国際協力について意見交換を行い、相互理解を深める。

ワークショップ (workshop) とは？

多様な文化や資質を持った人たちが、**全員参加型の協働作業**を行い、相乗効果を生みながら問題解決や創造、学びを行う手法。

近年、留学生と日本人学生が共に学ぶ「**国際共修**」への関心が高まりつつあるが、その手法としてワークショップが採りいれている。

言語・文化の異なる学生同士が、互いを理解し自己を確立するための、**問題解決力・コミュニケーション力・創造力**を育てる人材育成ツールとして、高等教育現場での積極的な採用が期待されている。



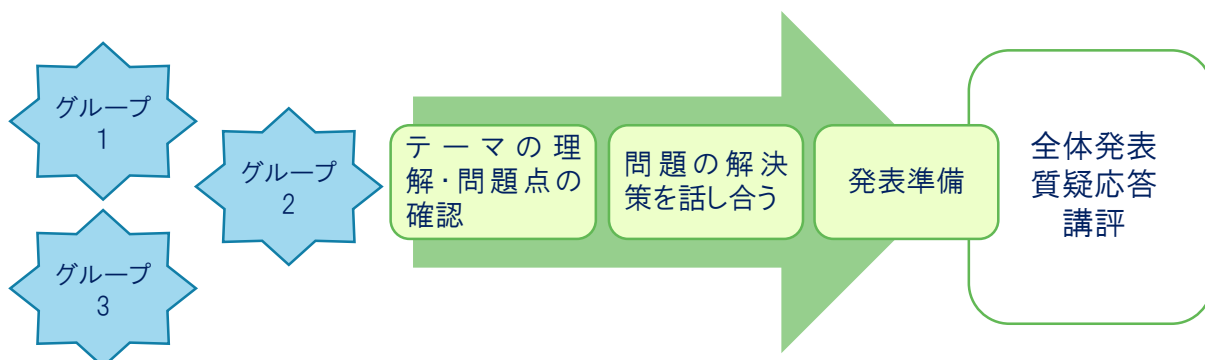
写真：2018年度開催のワークショップより

ワークショップの進め方

- ◆ グループごとのディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどのワークショップを、プロジェクト形式で実施する。
- ◆ レクチャーやファシリテーションを提供し、学生同士の積極的な議論を促進する。
- ◆ グループワーク終了後、**全体発表会(プレゼンテーション)**を行い、質疑応答・講評を通して、プロジェクトにおけるPDCAサイクル*についても学ぶ機会を提供する。

*PDCAサイクル

「計画」(Plan)、「実行」(Do)、「点検」(Check)、「改善」(Act)の頭文字をとったプロジェクト管理手法のひとつ。業務を継続的に改善するために企業等で導入されている。



今年度のワークショップ・テーマ：日本とアセアンにおけるSDGs

グループワーク

アセアン国費留学生と日本人学生との混合グループによるプロジェクト形式を採用

～ 1グループを10人程度で構成 ～

- アイスブレイク: グループメンバーがお互いを知る
- ステップ1: テーマの理解と問題点の確認作業
- ステップ2: 問題の解決策について議論
- ステップ3: 発表準備(レジュメ作成等)
- 全体発表(プレゼンテーション)、質疑応答、講評

- ディスカッション
- グループワーク

- レクチャー
- ファシリテーション

- プレゼンテーション
- 質疑応答・講評



プロジェクトにおけるPDCAについて学ぶ

写真: 2016年度開催のワークショップより



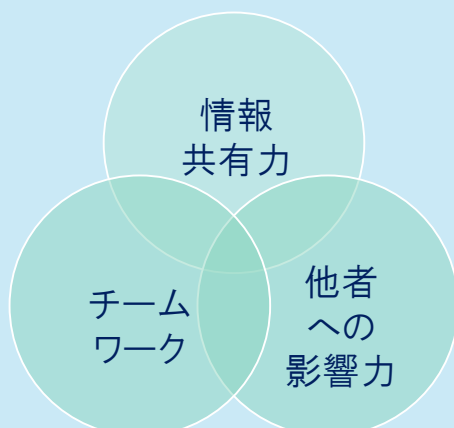
写真：2018年度開催のワークショップより

アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流 ワークショップのねらい

将来日本・アセアン各国でリーダーとしての活躍を期待される大学生の、グローバル環境下におけるコミュニケーション能力を高めるため、

1. 情報共有力
2. チームワーク
3. 他者への影響力(リーダーシップ等)

を醸成し、社会の変化に対応できる汎用的な能力を身につける機会を提供する。



キーワード:

- ✓ 多様性
- ✓ 協働作業
- ✓ 問題解決力
- ✓ コミュニケーション力
- ✓ 創造力
- ✓ 国際共修
- ✓ 人材育成

講師(講評)紹介 辻 耕治 先生

- 千葉大学教育学部技術教育講座教授
- 京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻博士課程修了
- 農学博士
- 農林水産省国際共同研究人材育成推進・支援事業フェロー
(滞在機関:Bioversity Internationalのマレーシア支部と中国支部)、JICA「インド国マディヤ・プラデシュ州大豆増産プロジェクト」病虫害管理専門家(個人コンサルタント契約)も歴任
- 千葉大学では、文部科学省大学の世界展開力強化事業「ツイン型学生派遣プログラム」メンター、文部科学省グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業「人間力を育む千葉ESDの地域展開」ESDコーディネーター等を務める。



2014年度より
本ワークショップの
講師を担当

写真：2014年度開催のワークショップより



レクチャー

- ◆ 日本とアセアンについて、アセアン国費留学生在がスライドを使ったプレゼンテーションを行い、参加学生が日本・アセアン基本情報を学習する機会を設ける。
 - ✓ アセアンを構成する東南アジア10カ国
 - ✓ アセアン基本データと、アセアンのこれまでの歩み
 - ✓ アセアン共同体
 - ✓ 日本とアセアンの関係: 安全保障、経済協力、人的交流
 - ✓ 心と心のパートナーシップと「福田ドクトリン」
- ◆ ワークショップでの学生同士の積極的な議論を促進し、情報共有の重要性を認識する場を提供する。

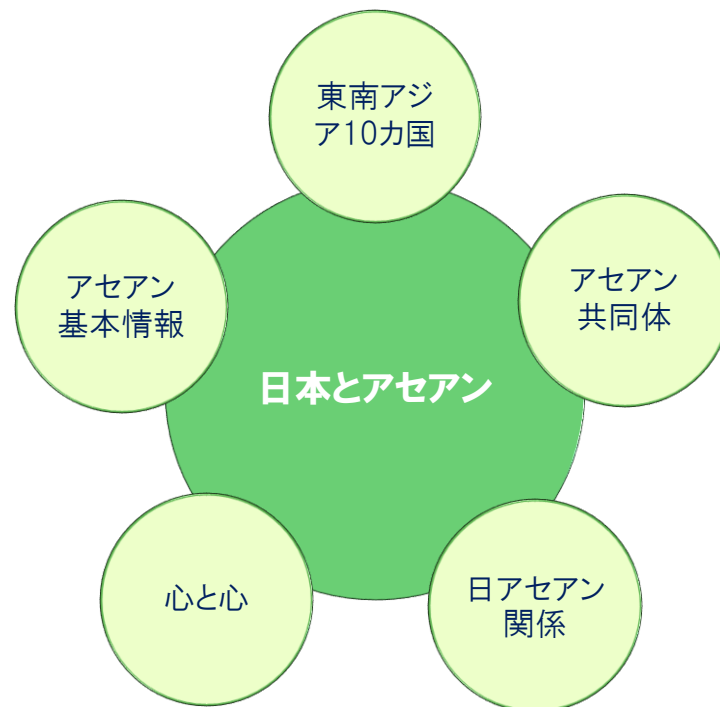


写真: 2018年度開催のワークショップより




ファシリテーション・学生支援チーム紹介


- 日本・アセアン・英国の大学院において、学位を取得したメンバーによるチーム
- 日本語対応可
- 「アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップ」経験者

メンバー1	
国籍	インドネシア 
学士課程	アンダラス大学(インドネシア)
修士課程	長岡科学技術大学大学院
博士課程	長岡科学技術大学大学院
最終学位	環境システム工学修士
現在	長岡科学技術大学大学院エネルギー・環境工学専攻博士課程3年

メンバー2	
国籍	ラオス 
学士課程	ラオス国立大学(ラオス)
修士課程	東京国際大学大学院
博士課程	東京国際大学大学院
最終学位	経済学修士
現在	東京国際大学大学院経済研究科経済専攻博士課程2年

メンバー3	
国籍	日本 
学士課程	千葉大学
修士課程	バーミンガム大学大学院(英国)
博士課程	N/A
最終学位	国際教育学修士
現在	アスジャ・インターナショナル事務局スタッフ

メンバー4	
国籍	ブルネイ 
学士課程	ブルネイ大学(ブルネイ)
修士課程	一橋大学大学院
博士課程	N/A
最終学位	初等英語教育学士
現在	一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻人間・社会形成研究分野修士課程2年

メンバー5	
国籍	ブルネイ 
学士課程	リバプール大学(英国)
修士課程	早稲田大学大学院
博士課程	N/A
最終学位	工学学士
現在	早稲田大学大学院先進理工学研究科生命理工専攻修士課程2年

メンバー6(全体統括)	
国籍	日本
学士課程	早稲田大学
修士課程	ウォーリック大学大学院(英国)
博士課程	N/A
最終学位	国際政治経済学修士
現在	アスジャ・インターナショナル事務局主幹



写真：2018年度開催のワークショップより

期待される効果 — 大学生全体 —

日本とアセアン各国との相対化

大学生が自国を客観視し、各国の問題意識を理解する。

多様な価値観の中で協働するためのイメージをつかむ。

宗教から民族、言語にいたるまでの多様性を持つアセアンからの留学生と、日本人大学生とが、グループによるワークショップを通して、将来異なる国籍の人間同士で仕事する環境のイメージをつかむ。

限られた状況・環境下において活躍するための肉体的・精神的な力を身につける。

国立オリンピック記念青少年総合センターでのプログラムや、団体行動、英語でのコミュニケーション体験を通じて、適応力や柔軟な思考力を高める。

～ 事後感想文に寄せられた参加者からのコメント ～

- 自分とは異なる視点に触れ、視野を広げるきっかけになった。
- 事業終了後もSNS等で連絡を取りあうネットワークも構築できた。現在も交流が続いている。

期待される効果 — 日・アセアン別 —

日本人大学生	アセアン国費留学生
<ul style="list-style-type: none">◆ 自らが発信主体になることの重要性を認識し、英語力を強化する。 ～グローバル人材として外国人とかわかっていくには、交渉力や情報発信力、自己表現力の開発が必要不可欠～◆ 外国人、とくにアセアン留学生の学びに対する積極的な姿勢に触れ、日アセアン関係を理解する。	<ul style="list-style-type: none">◆ 日本人大学生との合宿・ディスカッションを通して、日本を体験的に理解する。 ～日本人の考え方、価値観、自然環境、生活習慣、宗教観や歴史認識～◆ 自国と日本との違いを日本人に発信し、理解を求めるコミュニケーション力の必要性を認識する。

自国と相手国との違いを体験的に認識することで、
自国の事情に対する理解をより深める。
自分にとっての「母国」を再発見する。

～ グローバル人材になるには、確固たる自己も必要 ～

写真：2018年度開催のワークショップより



期待される効果 ～ 参加者から寄せられたメッセージより ～

<日本人大学生より>

- アスジャ生の当事者意識に圧倒された。彼らにとって政治や社会問題は大変身近で、自分たちが解決しなければならないと思っている。自分も時事問題により敏感になった。
- 留学生との交流にはこれまでも参加しているが、アスジャのワークショップのようにアカデミックなテーマで、英語でディスカッションするものはあまりなかった。将来留学を考えているので、留学先での様子が想像できてとてもよかった。
- この事業をきっかけとして、言語能力や情報発信力を高めようと思い努力するようになった。英語力もさらに強化したい。

<アセアン国費留学生より>

- 様々な国や専攻の学生とディスカッションすることで、考え方の違いを理解することができた。また、自分の専門分野以外のテーマについても勉強することができた。
- 日本政府の外交政策や、日本人のアセアン諸国に対する見解について理解を深めることができた。
- 日本人はまじめで礼儀正しく控えめで、あまり話さないという印象をもっていたが、自分の意見を積極的に上手な英語で話す日本人学生が多くいることがわかった。普段の大学生活では日本人学生と話す機会が少ないので、ワークショップで日本人と友だちになれてうれしかった。

写真：過去に開催されたワークショップより





写真：アスジャ・インターナショナル主催「ASEAN設立50周年記念事業—ASEAN Bonded as One—」（2017年度開催）

アスジャ・インターナショナルについて

概要

1. アスジャ・インターナショナル ASJA(Asia Japan Alumni) International (以下、アスジャという)は、**2000年4月に設立**された国際的な組織である。当初5カ国で発足し、**現在10カ国**(インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ミャンマー、カンボジア、ベトナム、ラオス、ブルネイ)が加盟している。
2. アスジャは、**日本国外務省**の拠出金を受けて、**アセアン元日本留学生評議会(ASCOJA*)**に加盟する各国元日本留学生会が推薦する奨学生制度を運営してきた。日本の大学院における教育研究を支援するとともに、留学生に**日本語習得及び日本文化・日本人を理解する機会を提供し、将来の日本とアセアンとの架け橋となるリーダーを育成**することを目的としている。各国1名の奨学生を受入れ、2018年度までの修了生は155名である。
3. 2009年の「事業仕分け」を受け従前のアスジャ奨学金制度は廃止されたが、2014年度の政府予算において新たに「**アセアン留学生交流等拠出金**」が計上され、**文部科学省国費留学生として奨学金を受給しているアセアンからの留学生**を対象に、交流事業は引き続き実施できることになった。2019年度はアセアン10カ国から各国元日本留学生会が推薦した**国費留学生(大学院生、学部生)** 19名をアスジャ国費留学生として採用した。これにより、2019年度のアスジャ国費留学生は、大学院生67名、学部生11名の計78名である。

アスジャは2000年の設立以来、福田康夫元内閣総理大臣のご指導・ご支援をいただいで運営してまいりました。

* ASCOJA (ASEAN Council of Japan Alumni)

- ❑ 1974年に故福田赳夫元首相(当時の大蔵大臣)の呼びかけで始まった、外務省招聘事業「東南アジア元日本留学者の集い」で交流を深めた各参加者たちが中心となり、ASEAN各国の元日本留学者同士の交流を目的として1977年6月に設立された。
- ❑ 元日本留学者が組織するASEAN各国の元日本留学者協会の連合体組織であり、各国において日本文化・日本語などの普及活動を、日本大使館と連携しつつ実施している。
- ❑ 現在の加盟国は、ASEAN10カ国である。(インドネシア、マレーシア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ミャンマー、カンボジア、ベトナム、ラオス)

組織・運営

(1) 理事会

- ① ASCOJA加盟国10カ国より各国1名の理事、及び日本側の顧問・理事によって構成される、最高意思決定機関である。
- ② 事業計画案、予算案、事業報告及び収支決算報告等を審議するため、年に2回開催される。(うち1回は書面審査)

(2) 事務局

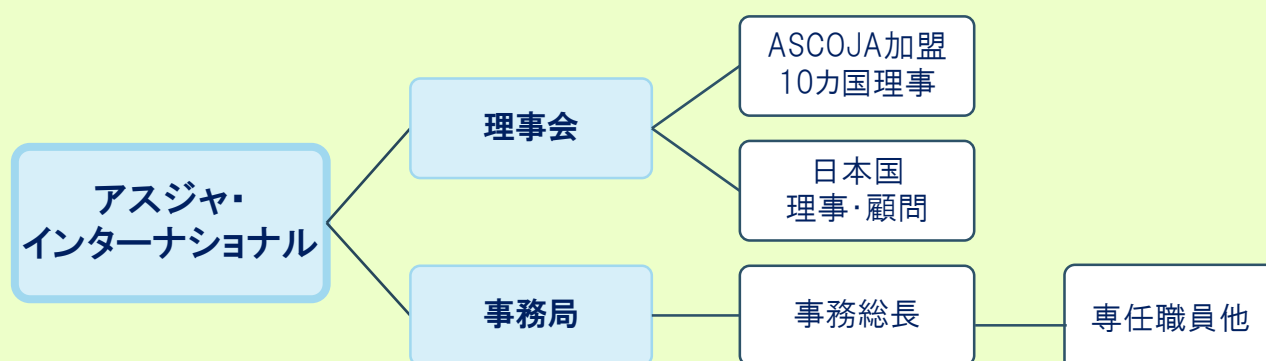
- ① 事務総長は理事会により任命され、事務局は、事業計画案、予算案等を作成し、理事会の承認を得て実施する。

<事務局の構成>

事務総長 佐藤次郎 ((一財)日本語教育振興協会理事長)

専任職員他 6名

- ② 事務局は、独立行政法人日本学生支援機構東京日本語教育センター(東京都新宿区北新宿3丁目22番7号)に設けられている。



<理事会名簿> 第10期：2018年4月 ～ 2020年3月

顧問	田島 高志氏	元駐カナダ特命全権大使 元駐ミャンマー特命全権大使
日本理事	小川 郷太郎氏	元駐カンボジア特命全権大使 元駐デンマーク特命全権大使
インドネシア理事	ヒデキ・アマンク氏 Mr. Hidekie Amangku	インドネシア元日本留学生協会(PERSADA) 事務局長
マレーシア理事	シアウ・クアン・リン氏 Dato Dr. Siow Kuang Ling	マレーシア元留日学生協会(JAGAM)副会長、 元同会長
フィリピン理事	ジュネリン・A・パグンサン氏 Ms. Junelyn A. Pagunsan	フィリピン元日本留学生連盟(PHILFEJA)会長
シンガポール理事	イー・ジェンエン氏 Mr. Yee Jenn En	シンガポール留日大学卒業生協会(JUGAS) 会長
タイ理事	プッサディー・ナワウィチット氏 Ms. Bhusdee Navavichit	タイ王国元日本留学生協会(OJSAT)顧問、 前同会長
ミャンマー理事	ミョー・キン氏 Prof. Dr. Myo Khin	ミャンマー元日本留学生協会(MAJA)会長
カンボジア理事	ブティ・モニラ氏 Dr. Vuthy Monyrath	アスジャ理事会議長 カンボジア元日本留学生協会(JAC)会長
ベトナム理事	ゴ・ミン・トウイ氏 Dr. Ngo Minh Thuy	ベトナム元日本留学生協会(JAV)会長
ラオス理事	パンヤ・チャントボン氏 Mr. Panya Chanthavong	ラオス元日本留学生会(JAOL)会長 ASCOJA議長
ブルネイ理事	ナジミナ・ファイルーズ・アブドゥル・ラティフ氏 Ms. Hajah Najmina Fairuz Binti Haji Abd Latif	ブルネイ元日本留学生会(BAJA)会長
事務総長	佐藤 次郎氏	(一財)日本語教育振興協会理事長



写真：第30回アスジャ・インターナショナル理事会

事業内容

(1) 留学生支援(交流事業)

オリエンテーション及び歓迎会(2000年度より実施)

アスジャ設立趣旨、アスジャ事業の理解を深め、留学生同士の交流を図る。

国際理解教育のための学校訪問(2000年度より実施)

アスジャ国費留学生の自国文化、習慣を紹介し、日本人児童・生徒との交流を図る。

ホームステイ(2000年度より実施)

一般の日本人家庭に約1週間ホームステイし、日本文化、生活習慣を体験し理解する。

日本文化体験(2004年度より実施)

日本の伝統文化(歌舞伎、能楽、茶道等)に触れる機会を設け、日本文化の理解を深める。

地方産業文化体験(2015年度より実施)

アスジャ国費留学生の2年生、3年生を対象に、3泊4日で地方に出かけ、日本の企業見学・企業と学生のマッチング、地方文化体験等を行い、日本理解を深める。

アセアン祭り(留学生自主事業)(2003年度より実施)

アスジャ国費留学生による企画、実施の事業。自国の概要、料理、民族衣装等を日本人や他の留学生たちに紹介する。

アスジャ国費留学生修了式(2000年度より実施)

アスジャ国費留学生としての修了式を行う。

アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップ(2014年度より実施)

アスジャ国費留学生と日本の大学生が宿泊交流を通じ、お互いの国の文化や日本とアセアン各国の課題や協力について英語で意見交換を行い、相互理解を深める。



能楽体験@杉並能楽堂



日本人大学生との国際交流ワークショップ



地方産業文化体験@毛越寺



写真：第13回アスジャ・ASCOJA分野別シンポジウム(於：カンボジア)

(2) ASCOJA各国元日本留学生会の活動の支援

① 留学生会指導者等の招聘

毎年東京でアスジャ理事会を開催する。

また、理事会開催期間中にASCOJA幹部会開催の支援を行う。

② ASCOJA総会、ASCOJA幹部会への参加

毎年開催されるASCOJA総会及びASCOJA幹部会に参加し、ASCOJA各国元日本留学生会と連携を深める。

(3) アスジャ・ASCOJAネットワーク強化支援

① オンライン・プラットフォーム

アスジャがASCOJAとの一層の連携協力を図っていくとともに、ASCOJAネットワーク強化の支援のため、2015年度よりアスジャのサイト上でASCOJA関係情報を掲載する。

② アスジャ・ASCOJA分野別シンポジウム

人材交流、ビジネス交流等の分野別シンポジウムを、アスジャ・ASCOJA・開催国元日本留学生会との3者共催で、2015年度より実施している。



写真：福田康夫元内閣総理大臣、堀井巖外務大臣政務官を迎えて開催された第23回ASCOJA総会(於：ブルネイ・ダルサラーム)



写真：2018年度開催のワークショップより

参加者の感想

* 日本人大学生の所属大学名は参加当時

松浦 貴大さん(早稲田大学大学院)

プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。

さまざまなバックグラウンドを持つ人と英語で意見を交換する経験を積めたと思います。日本人は意見を言うことが苦手な人が多いといわれてきたと思いますし、やはりアセアンの留学生の方が発言回数は多かったと思います。しかし留学生たちは日本人学生の発言を促してくれて、発言しやすい環境にしてくれます。またさまざまな国の人たちと英語でコミュニケーションをとるため、日本ではなかなか使う機会のない英語を存分に使うことができましたし、英語の理解度も初日と比べて良くなったと思います。それだけでなく、アセアン諸国の将来リーダー達と事業を考える機会が与えられて、論理的な考え方、相手への伝え方、プレゼンの構成など、これから社会に出ていくにあたって必要なスキルを磨くことができました。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

夜中2時までのディスカッションが印象に残っています。3泊4日という短い時間で難しい問題を解決するための方法を考えることは容易ではありませんでした。アイデアが浮かんでもそれを相手に伝えるための準備は大変でした。しかしチームが一つとなって、良いものを作ろうと、本気で考え、ぶつかり、そして一致することはなかなかできない体験でした。仲が良くなった友人の国と私が住む日本との関係を良くしていくことは夜の眠気を忘れるほどに熱中させてくれました。

次回参加する日本人学生へのメッセージをお願いします。

とにかく行動を起こしてみてください。私もアセアンにもものすごい興味があったというわけではありませんでした。しかし、いろんな国の人と触れ合うことで、外国の問題が他人事ではなく、身近に感じることができるようになると思います。要するに視野が広がります。グローバル化が進み、またアセアン諸国の成長が著しい中で、視野を狭くすることは危険だと思います。

せっかくの大学生の夏休み、3泊4日で人生が変わるとは言いませんが、いろいろとやりたいこと、好きなことなどが見えてくるのではないかと思います。僕自身アセアン諸国の事情についてかなり興味がわきましたし、絶対に10か国すべて回りたいという思いが芽生えました。変わるきっかけにはなるとは思いますので、ぜひ参加をしてみてくださいと思います。

石野 恵理さん(東京外国語大学)**プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。**

ASEANからの留学生と、ASEANの将来や日本との関係を考える機会は大変貴重でした。私は外大でインドネシア語を専攻していて、ASEAN10ヶ国からの留学生と意見を交換できたことが興味深かったです。どうしたらASEANが発展できるのか、というテーマ一つにしても、留学生と日本人学生では視点が異なっていたり、一緒だったり、今後専攻のインドネシアをはじめASEANを学ぶ際に、彼らの様に様々な視点から見ていきたいと感じました。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

最終日のプレゼンテーションでの質疑応答についてです。日本がASEANへのODA援助を積極的に行っていることに関して議論になったときのことでした。そのとき、ASEANの留学生が、「ASEANは日本からODA援助を受けられて助かっている。もし今後もその援助を受けられるなら有難い。しかしそのお金はあなたたち日本から出ているのだから、本来はASEANへのODAのためではなく、日本のために使える。日本のみんなはどう思うか。」と尋ねられました。日本人としてどう考えるか、ということを求められたと感じました。ASEAN、日本両方にとってどう関係を良い方向にしていけるのか、もし金銭面が求められるなら何が正しい判断なのか、両方の立場から考える必要があると感じた瞬間でした。

次回参加する日本人学生へのメッセージをお願いします。

ASEAN諸国からの留学生と共に学べる機会はなかなかないです。私は大学でASEANを中心に学んでいるので、彼らとディスカッションやプレゼンテーションをして、とても刺激になりました。ASEANにもともと興味があった人はもちろん、そうでない人も、自分の視野が広がるきっかけになると思います。交流会もあり、留学生も日本人学生も楽しく親交を深めることができました。

谷口 朋さん(東京大学)

プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。

今までも中高で問題に対して解決策を考えることはあったけれど、このプログラムのように「feasibility」を重視したビジネスコンテストと政策立案コンテストが融合したような深い解決策を議論するような機会は初めてでした。それに加えて、今回は国内ではなく、日本とASEAN諸国という国境を超えたフィールドでの議論になり、難しく感じる一方、とても楽しかったです。自分はまだまだ自国の知識さえも不足していると思い知らされると同時に、各国を代表してその国の事情を教えてくれるASEANからの留学生にとっても刺激を受けました。

今回のワークショップで最も難しく、時間のかかった議論は、先ほども少し触れた「feasibility」です。問題を見つけてその解決策としての案を出すまでの議論にも時間がかかりましたが、一旦解決策にたどり着いても、それを経済的にどう持続させていくか、関係する人(実際にそのプログラムを実施する人、参加する人、投資する人など多面的に渡る)のインセンティブはどう誘発するか、など理想的には魅力的な解決策でも、それを実行するとなると直面する壁が多かったです。それらを時間をかけて話し合うことで理想と現実の折り合いを学んでいけたことは今回のプログラムの大きな成果だと思います。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

エピソードというような局所的なものではないですが、最終日の各班のプレゼンテーションの後の鋭い視点からの質問は印象に残りました。自分は結局一回しか質問しようと思えなかったけれど、コメンテーターの方々は発表者の理想に現実の問題を突きつけていて、自分や自分たちのチームには欠けていた観点を認識できました。

また印象に残ったこととして、ASEAN諸国間でも違いが大きくあったことです。日本とASEAN諸国という二つのキャラクターを考えるだけでは解決しないことも話し合いの中で多く生じました。ASEANというように括ってしまうことは、もちろんその地域の結びつきを考える点では重要ですが、深い議論をしていくときには、その枠をとって考えていくことが重要だと思いました。

次回参加する日本人学生へのメッセージをお願いします。

このプログラムは自分から積極的に参加することでいくらでも自分のためになる時間になります。自分次第で得られるものは果てしないのではないかと思います。ただ受け身になろうと思えばそれで4日間を過ごすことも可能ではあります。このプログラムに参加すると決めたからにはぜひ自分から実りある4日間にしてください。

東出 陸さん(京都大学)

プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。

私は今回、この事業でのディスカッションにおいて、他のメンバーの意見をよく聞き、よく分析することで、グループ全体の意見やコンセプト、話の流れを筋道立て、うまくまとめていく手助けをするという形で、チームに貢献しようという目標を立てて臨んでいました。実際にグループワークでは、議論の本質やsubjectに基づいた議論の目的、方向性に対して意見を述べ、グループ内でより深い議論をする火付け役になれたのではないかと考えています。私が自分なりに考え、表現する内容がどのような議論においても全体に影響を与えることができるのだということを確認できたことが、本ワークショップで得た成果です。また最終日、一人ずつ思ったことを話すセッションでの私のスピーチはいくらか反響があったようで、何人かの参加者から影響を受けたという話をもらいました。私は常々自分の思想や考えがどうすれば世の中で価値になるだろうかと考え、できるだけ多くの人々に良い影響を与える人間であろうと意識して生きているので、この反応は非常に嬉しいものでした。このような体験から考えても、私が生きる上で意識しているテーマのひとつである、世の中で価値のある人間になるということに対して、とても自信になる事業であったと思います。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

上記に記したように、グループディスカッションの時間や、最終日で自分が話したことについては強く印象に残っています。それ以外では、プレゼンテーションにおいて自分たちの発表の際、最後の質問コーナーにおける質問に対してのアンサーに自分が答えられなかったことが思い出されます。私はほぼすべての疑問点についてメンバーと事前に話し合っており、その状態であれば質問に対して一定の答えを出せるのではないかと考えていましたが、実際には臨機応変に対応することができず、他のメンバーに答えてもらっていました。私の本ワークショップでの反省点として、あるいは自分に潜在する一般的な課題として、ブレインとして話の大意や筋道を考え、クリティカルな問いを立てることによってグループを導くことはできても、話をリードしたり、プレゼンを先頭に立って行ったりという能力にはまだ不足しているということがあることを教えてもらえた瞬間でした。全ての時間がありありと思い出すことができ、印象的な場面は実はたくさんあって、仲間とともに宿舎までの並木道を歩いている景色さえもが、まだ胸の中に残っています。ほのかに甘酸っぱい青春の1シーンとしてこれからも私の中にとどまって、これからも時々懐かしい気持ちにさせてくれることでしょう。私はそうした彩のある場面を提供して頂いたことに、他のみんなが思っている以上に感謝し、深くこれをかみしめていると思っています。

次回参加する日本人学生へのメッセージをお願いします。

日本人であっても、そうでなくてもあまり変わらなくて、大切なのは私たちは皆一人であるということではないでしょうか。一人で自分の生きる意味を考えていかなければならない、どうすれば他の人と自分が違うのか、どうすれば他と差別化し、自分の価値を堅持できるのか、人生の中でそうしたことを自分に問い続ける過程の中で、このワークショップを利用してほしいと私は思っています。

立花 慶さん(上智大学)

プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。

私がこの事業を通して主に二つの成果を得ました。

一つ目は、積極性です。今回の交流事業を通して非常に数多くのことを学ぶことが出来たため、今後も同様の機会があった際に積極的に参加したいと思うように至りました。

二つ目は、学習意欲です。ASEAN諸国の学生との議論を通して自分の世界諸問題の知識の不足を実感するに至りました。それによって、現在、大学生活においてあらゆる分野の勉強に対して以前より熱が入るようになりました。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

主に二つあります。

一つ目は、グループワークで作業をしている際に、各人が自分の役割をしっかりと認識していたことです。私のグループでは、ネットでデータを探す人、議論を仕切る人、SWOT分析を行う人など役割分担が明確になされていました。私は、積極的に意見を発言することに徹していました。この経験は私にとって自分の強みを作る必要性を認識するきっかけとなり、大変印象深いものでした。

二つ目は、議論中に感じたASEANの国々の学生の母国を想う気持ちの強さです。彼らと議論している際には常に母国の経済状況を良くしたいという強い気持ちが感じられました。母国の抱える問題について良く把握していますし、それに対する意見や解決案を各自が持っていました。私は、ASEAN諸国の抱える問題、また、日本の抱える問題について知識を蓄える必要性を感じる事ができたため、非常に有意義で印象深い経験だと感じました。

次回参加する日本人学生へのメッセージをお願いします。

私は、参加する日本人学生には積極的に議論に参加してもらいたいと思います。どれだけ積極的に議論に関わることが出来たかで、成長度合いが左右されると思います。英語が得意でなくても、説得力のある人には皆真摯に耳を傾けますし、また話そうと努力する過程で英語力の上達を実感できると思います。

私はこの交流事業終了後に日本人参加者と感想を共有したのですが、各人が何らかの学びを得ていました。英語力向上の目標が出来た人もいましたし、何事にも積極的に取り組むことの大切さを学んだ人もいました。是非とも積極的に議論に参加し実りある交流事業にしてもらいたいと思います。

写真：過去に開催されたワークショップより



手代木 秀太さん(群馬大学)

プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。

出身地域が異なると、政策や慣習に対する捉え方が大きく異なってくる。その様な多彩なバックグラウンドを持つ人々と、日本・ASEAN諸国がWin-Winの関係を得ることが出来るプランを考え、発表したことで、互いの持っていない部分を共有し、幅のある思考力を養うことが出来た。

また自分の専門である医学のフィールドに限らず、芸術や、経済など様々な視点を持った人々と知り合いになれたことで、今後自分の専門の枠を超えた発想をする契機にもなったのではないかと考える。貴重な友人づくりの場にもなった。

他にもビジネスの現場でのプレゼンを経験してきたASEAN各国の友人から、英語でのプレゼンテーションの方法論のアドバイスを貰ったことは貴重な経験であった。日本語で学生が行うプレゼンテーションとは一味違った間のつなぎ方や、独特の理論の構成の仕方を間近で体験し、発表を共に作り上げることが出来た。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

プロジェクトを考える際に、自分は日本の保険制度をASEAN諸国に導入することを考えたが、石油マネーによって医療費が無料である国があったり、国民が医療にかけたいと思う費用や質の違いが見られたりしたことが印象に残っている。日本とASEAN諸国間の差異だけでなく、ASEAN域内の国々でも医療制度に対する捉え方は異なり、一律の基準を設けることの難しさを感じた。この経験からは、自分の不勉強さを痛感すると同時に、自分の考える自国制度の長所が必ずしも広く世界に甘受されるものではないということを学んだ。いかに制度の優れている側面を異なる価値観を持つ地域に、分かりやすくメリットとして示すことが出来るのか。これは非常に難しい問題だと感じた。また一方で、自分が制度の長所と考えている点は果たして本当に長所であるのか、そんな疑問が惹起されより深く学んでみたいとも感じるようになった。

最終的には我々の提案するプロジェクトは食を通じた文化交流になったが、その中でも互いの文化や食に対する姿勢の何が双方にとっての利点であるのかが、宗教や国の経済力、食文化の知名度によって異なっており、非常に印象に残っている。

次回参加する日本人学生へのメッセージをお願いします。

日常会話の英語を磨くことは、英会話教室や英語でのドラマを視聴することで向上することが出来ますが、学生時代に英語でプロジェクトを考え、ビジネスの様に発表するという経験はこのプログラムに参加しない限りなかなか得ることの出来ないものであると思います。

またASEAN諸国を代表する優秀な皆さんや高い意識を持った日本人大学生と交流するまたとない機会です。このプログラムは自分の将来の糧となるだけでなく、非常に楽しい夏の思い出になるものでした。是非参加されることをおすすめします。



鈴木 万葉さん(千葉大学)

プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。

この事業に参加する前から英語で行われる授業を取ったり、留学生と友達になったりして英語に触れ、話す機会にはありましたが、なかなか慣れませんでした。この事業に参加して、24時間アスジャの学生と一緒に生活することでずっと英語を話さなければならない環境に身を置くことができ、英語を話すことを躊躇わなくなりました。今では、英語で日本人と話すと、外国に行ってたんですか？とよく聞かれます。外国どころか飛行機にも乗ったことがないですと答えると驚かれます。英語はもう話せるものだと自分で思い込んでどんどん使っていこうと思います。英語でのディスカッションは大変でしたが、予備知識があれば単語しか聞こえなくても理解できるということがわかり、語学はもちろん自分の専門分野の勉強にも力を入れようと思えました。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

ディスカッションの時わからなそうな顔をしていると、アスジャの留学生が分かりやすいように言い直してくれたり日本語を交えて説明してくれたりして助けてくれました。嫌な顔をせず私たちを置いていかないでちゃんと議論に参加できるように配慮してくれる温かい気持ちが伝わってきて嬉しかったですし、そういう態度を見て私ももっと彼らと分かり合いたいという気持ちになりました。また、彼らと仲良くなりすぎて一緒にいることが当たり前になってしまい普通に日本語で話かけてしまうなんてことが多々ありました。日本語がわからない子なのに伝えることもありました。友達になるのに言語も国籍も関係ないと思いました。

次回参加する日本人学生へのメッセージをお願いします。

英語を話せるようになるには外国に行かないといけないなんて嘘です。実際、私はこの夏1か月留学に行った友達よりも英語が話せる自信があります。それは、留学では日本人の留学生同士でいることが多く現地の学生と触れ合う機会が少ないのに対し、このプログラムはかなりアカデミックな内容のディスカッションが多くをしめていたからです。日本で合宿なんて意味ないと思わず参加すべきだと思います。アスジャの留学生はとても優しいです。英語の能力より必要なのは分かり合いたいと思う気持ちです。英語力なんかよりも大切なことを見つけることができるプログラムです。もちろん、参加する姿勢によりますが、頑張ってください。

園部 美穂さん(東北大学)

プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。

参加前よりも、アセアン10か国の全てが身近な存在になった。今までは、大学にいる留学生の友人の出身国は、なんとなく親しい国のように感じていたが、そうでない国については、それほどの接点を感じていなかった。しかし、それぞれの国からの留学生と少なくとも一人は仲良くなることができたお陰で、何のつながりもないアセアンの国がなくなった。特に、ミャンマーやカンボジア、ラオスは、大学の協定校がなく、友人ができる機会がなかったので、このワークショップに参加して本当によかった。

友人として話すことができたので、ネットやニュースからでは知りえない、その国ごとの肌感の生活を感じることができた。その国への興味ももつようになり、もっと知りたいと思うようになった。

また、世界全体のことを考える時の自分の考え方が変わった。日本と海外の比較という、二つの対立構造ではなく、日本とタイ、インドネシア…のように、多くの国を並べてマルチ的に考える癖がついた。その国ごとの特徴を捉えようという意識になった。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

ラオスの学生が英語よりも、日本語で話しやすいと言ったこと。それまでは、海外の学生、特に留学するような学生は全員が優秀で、英語も非常に得意であり、自分はまだまだだと思っていた。しかし、留学生たち、とくにアセアンからの留学生たちは、英語が母語ではない中、努力して、ここまで来ていることに気づき、自分もさらなる努力が必要であることを痛感した。

また、チームには強い自己主張だけではなく、それらを吸い上げてまとめていく役割も必要だと気付いた。その役割を担う場合は、自分の意見を言わないのではなく、自分と同じ意見を誰かが言うならば発言を控え、議論が行き詰まった時に、チームにヒントを与えていくことも一つ手段だと思った。

次回参加する日本人学生へのメッセージをお願いします。

東南アジアと聞くだけでワクワクする方、将来海外で働きたい方にお聞きします。きっとすでに、色々な国際交流の場に顔を出し、そこそこの英語で会話を楽しむことができますと思います。ですが、実際に英語だけを共通の言葉として、一つのものを作り上げていくという機会はなかなかないのではないでしょうか。私はそうでした。

このワークショップでは、相手と仲良くなるだけでは意味がありません。自分の意見を発信し、相手からの意見を引き出し、議論を一つ一つ進めていくことが必要になります。そのために必要な力は、普段の学生生活ではなかなか身に着くことができません。ですが、ワクワクするような将来を現実のものにするためには、絶対必要になっていく力だと思います。このワークショップは、国内にいながら、その力を鍛えることができるものだと、私は思います。

少しの勇気が必要かもしれませんが、自分の将来のために、世界の未来のために、ぜひ、一歩踏み出してみてください。

中垣 花瑠奈さん(明治大学)

プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。

英語でアジアの学生、日本の学生と意見交換がしたいと意気込んで参加しましたが、正直、自分の英語力のなさに打ちのめされました。ディスカッションでは、まず、英語を理解することに必死で、ディスカッションに入っていくことができませんでした。それでも、何かしら英語で発言をしようと試みました。一日の工程が終わり、部屋に戻ってからは、理解できなかった単語を調べる時間に費やしました。成果というようなものを得ることができたか果たして分かりませんが、最後まで逃げ出さず、必死でついて行こうとした姿勢は、自分でも偉かったなと思います。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

アセアン各国から学生が集まっていたこともあり、英語の発音に訛りがある学生が多く、聞き取りづら、もしくはほとんど聞き取れない学生もいました。しかし、完璧に聞き取れなくても雰囲気や手振りだけで聞き取れたりしている場面を多く見かけました。私は、聞き取れないということにひるんでしまい、頭が白くなってしまうことが多いのですが、聞き返すということや、推測したり、堂々とするのが大事なのだということに気がつきました。

次回参加する日本人学生へのメッセージをお願いします。

とてもきついです。特に私は、今回参加した学生の中で、一番英語ができなかったという自覚があったため、なおさらそう感じました。それでも、自分の意見を求められることが何度かあり、そのときは、私のつたない英語でもみんながきちんと聞いて、尊重してくれたことはとても嬉しかったですし、もっと英語を頑張りたいという思いが強まりました。アセアン学生や、他大学の学生のレベルの高さに圧倒され、打ちのめされますが、それに負けずにエネルギーに変えることができれば、とても素晴らしい経験になると思います。覚悟して、挑んでください！！

写真： 2018年度開催のワークショップより



チョウ・エヴァ・リンさん(アスジャ・マレーシア国費留学生・横浜国立大学大学院)

この事業で、日本の大学生と交流して、日本や日本人に対するイメージはどのように変わりましたか。

この四日間の国際交流ワークショップで学んだ事は多様な環境でのメンバーとしての働き方です。ワークショップグループのメンバーは違う学年や専門の学生ですので、ディスカッションの時、皆の主張や考え方が違うから様々な意見が出てきました。その時、皆の意見をまとめて整理して、一つのプロジェクトになるのが困難だと思いました。でも、リーダーはテーマを決めることをはじめ、タスクを分担や進度を監督などの事をするときいつもメンバー達と緊密な協働を続けました。メンバーとしての私達もリーダーの指示に従ってプロジェクトを作成しました。とてもいい経験と思いました。また、今回のワークショップで日本大学生はアセアン国の事についてけっこう関心を持つのも驚きました。皆が出会って、国の事について話したり意見を交換することができて、良かったと思います。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

一番印象的なエピソードは三日目の発表会でした。その日は皆のプレゼンテーションが素晴らしかったです。一日前に、日本人大学生と私達一緒に日本とアセアン各国の問題を発見して、解決策を考えて、最後はグループごとに様々なプレゼンテーションを作成しました。最初は時間は1日しかない、アイデアとか全くないからプレゼンテーションを作るのは難しいと思ったけど、グループで色々な専門のメンバーとチームワークを発揮して、厳しいの時間で計画を立ち上げました。また、発表会で日本大学生の英語と専門の能力も見ました。Q&Aセッションの時上げた質問もすごく良かったと思います。日本とアセアン各国ウィンウィン関係の構築について色々な新しいアイデアや提案を挙げて、できればこれはただプレゼンテーションじゃなくて、将来いつか実現したいです。

将来、日本と自国、日本とアセアン諸国の架け橋のリーダーとなるために、この事業で学んだことはどのように役に立つと思いますか。

ワークショップで様々な国や専門背景の学生とグループになって、四日間一緒に過ごしました。将来日本と国の架け橋のリーダーになったら、色々な国の方々と会うとか仕事をするとかの場面が多いとおもいますので、このワークショップはいい経験になりました。また、リーダーが皆を引率して、目標を達成するやり方も色々勉強ができました。これは決して簡単なことではないと思います。ですから、将来は賢いリーダーになるの準備として、私今からもっとたくさんスキルを学んで、色々な新しいことを挑戦して、経験を貯まりたいです。ですから、今回だけでなく、来年、再来年のワークショップも参加したいと思います。



写真：過去に開催されたワークショップより

ニヤム・ツ・チャオさん(アスジャ・シンガポール国費留学生・早稲田大学大学院)

この事業で、日本の大学生と交流して、日本や日本人に対するイメージはどのように変わりましたか。

このワークショップで初めて日本人と一緒にプロジェクトをしました。日本人の仕事に対しての積極的な態度を憧れていた僕にとっていい経験でした。プロジェクトのディスカッションと食事中の会話を通じて日本人の文化や生活についてたくさん学びました。

このワークショップは英語のワークショップですが、日本人学生の英語力でははっきり言えないことがあると感じています。そのせいで、ディスカッションでは発言することが少ないです。僕たちのグループではもし言いたいことが言えない時、まず英語で言ってみて、その後日本語で補足するルールを作りました。日本人にとってちょっとだけ楽になったと思いましたが、もっと話したくなりました。僕が学んだのは、ディスカッションの時多分皆は意見を持っていますが、話したくはありません。どうすれば話せるようになる楽な環境を作られるかは一番大切だと思います。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

ディスカッションにしろラジオ体操体験にしろ僕にとってとても面白かったです。でも一番印象に残ったのはプレゼンテーションでした。僕たちのプロジェクトはほかのグループに比べると簡単だし、わかりやすかったです。しかも、晩ごはんの直前だから、皆は起きていて注意深く聞いているはず。だから、たくさん難しく答えられない質問が来るのを怖かったです。だから、グループで決めたのは、どんな質問であろうとも、まず聞いて、グループで討論してから、一人ずつ答えることにしました。予想通り、質問がたくさん出てきました。でも一人の力ではなく、皆の力に合わせて、質問を一つずつ答えました。満足感が感じました。

将来、日本と自国、日本とアセアン諸国の架け橋のリーダーとなるために、この事業で学んだことはどのように役に立つと思いますか。

日本人と一緒にプロジェクトやディスカッションをするチャンスはめったにありません。でもこのワークショップを通じて貴重な機会をもらいました。難しい課題に対して日本人の見方、考え方と思考パターン、または質問と議論するスタイルをよくわかるようになりました。シンガポール人とは全く違うと思います。例えば話しかたはもっと僕たちより婉曲です。もっとダイレクトな言い方を好きではないかもしれません。今後日本人とまたディスカッションをするときそのポイントを覚えながら自分の意見を述べるべきです。



写真：過去に開催されたワークショップより

ピンジャーウィー・リアンモーラーさん(アスジャ・タイ国費留学生・慶応義塾大学大学院)

この事業で、日本の大学生と交流して、日本や日本人に対するイメージはどのように変わりましたか。

色々なチームが発表する時を見てやさしく説明する方法を勉強になりました。また、質疑応答の時は先輩のコメントを聞いて学術的な答える方を勉強になりました。友達や先輩に質問された事も、次回の発表や考え方など、改善することにおいて役立つだと思います。それに、アセアン諸国の魅力だけではなく、様々な問題点を以前より分かるようになりました。また、人々との意見が対立する時に柔軟な態度を取り、自分の意見を丁寧に出す方法及び自分の意思を相手にはっきり伝える方法を学びました。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

今回の活動中、私にとっては一番印象に残ったエピソードは最後の日の発表でした。一所懸命頑張っている皆さんのアイディアは形になって、あっという間に皆で色々な事を協力して発表の内容だけではなく、様々な面白い発表方法を考えていた事も素晴らしいと思います。その上に、発表後の質疑応答の時は自分の専門の関係ないテーマに聞かれた人であれ、英語があまり得意ではない人であれ、自分のチームのために頑張って英語で答えて感動の気持ちでいっぱいでした。皆は自分がやった事ない事をチャレンジしてみて、自分のコンフォートゾーンを一步出て、これから大きくなっていくだと思います。

将来、日本と自国、日本とアセアン諸国の架け橋のリーダーとなるために、この事業で学んだことはどのように役に立つと思いますか。

将来、日本とタイ、日本とアセアン諸国の架け橋のリーダーとなるために、身に付くべき事は異文化を理解する能力だと考えます。私にとっては異文化を理解するというと、その国の言語を学んで話せることではなく、その国の人々の考えや文化の起源を深く知ることだと思います。また、その違いを知ることで、以前に自分が意識しなかった自国愛とともに自国の魅力などが沸いてくると思います。しかし、どうやって自国の良さを話す時、能書きを言わずに丁寧に教えることに気を付ける事も重要だと考えます。



写真：過去に開催されたワークショップより

ソー・ニエイ・ウーさん(アスジャ・ミャンマー国費留学生・東京海洋大学大学院)

この事業で、日本の大学生と交流して、日本や日本人に対するイメージはどのように変わりましたか。

このワークショップは去年も参加しましたから、その経験を使ってほかの日本人の学生や、ASJA生に導くことができました。このような自分と立場が同じの人たちをリードする機会は私にとってなかなかないものです。それと、マレーシアのマンさんが私のグループリーダーだから、今回私は同時にリーダーとフォロワーとして経験するのができました。そのおかげで、フォロワーとして何を求めるか、リーダーとして何を求めるかを二つの場面から見えるようになりました。私は去年失敗したことや、成功したことを新人の皆さんに伝えて、全員楽しめる空気を作れるためにできるだけがんばりました。その結果、自分ももっといいリーダーとフォロワーになったと思います。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

一番印象に残ったことはいくつもありましたが、一つだけ言います。グループのメンバー、日本人のミリさんが体調悪くて、活動を続けられなくなってしまったことです。私は皆が楽しく参加できる空気を作りたいかったが、ディスカッションが始まると、テンション上がって、周りをあまり見てなくなりました。そのせいで、ミリさんが体調悪いのも気づけなかったです。それは、先輩として欠点だったと思います。ミリさんは少し休んだ後、続けられたのは幸いでした。その後、私とグループリーダーのマンさんはメンバーの全員とちゃんと話すのも優先して、皆が楽しめるワークショップになれるようにできるだけ頑張りました。

将来、日本と自国、日本とアセアン諸国の架け橋のリーダーとなるために、この事業で学んだことはどのように役に立つと思いますか。

リーダーも、フォロワーも簡単ではない任務です。私は自分の研究室で先輩たちの指示を従い、先輩たちを導くことがよくありますが、違う背景の人たちと一緒に働くチャンスはあまりないです。このシナリオは実際の国際関係あるいは日本アセアン関係に対してよくあることです。すごく短い時間で、論理的なプロジェクトを作るのは大変なチャレンジでした。でも、それを皆の力で乗り越えたので、将来もっと大きい協力のプロジェクトたちにうまく協調する自信をできるようになりました。



写真：過去に開催されたワークショップより

エット・ソピアレンさん(アスジャ・カンボジア国費留学生・東京大学大学院)

この事業で、日本の大学生と交流して、日本や日本人に対するイメージはどのように変わりましたか。

ワークショップの時に、友達と日本とアセアンに関する、新しいプロジェクトを考えて、色々ディスカッションして、発表したり、先輩の姿を見たりすることにより、グループワーク、リーダーシップ能力、プロジェクトの作成、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力などが上達したと思います。しかも、新しい日本人の友達ができました。その方々が素晴らしい人ばかりで、勉強になり、考え方も広がった。日本人だけではなく、アセアンの友達とも意見交換することで、色々学びました。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

ワークショップでは食事、体操、プレゼンテーション、講義などの様々なアクティビティーと一緒に参加してすごく楽しかったが、一番印象に残ったのはグループワークの時です。グループワークの時に、皆の一生懸命な姿を見て、すごく感動しました。特に、グループワークのディスカッションの時にアイデアを出し方、NOの言い方などを色々学びました。また、その姿を見て、日本とアセアンの関係をどうやってよくするかをもっと頑張るって考えていきたくなりました。参加する前に、そんな考えはなかったのに、色々ディスカッションしたら、たくさんアイデアが生まれました。

将来、日本と自国、日本とアセアン諸国の架け橋のリーダーとなるために、この事業で学んだことはどのように役に立つと思いますか。

上記のように、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力などが上達しました。これらのリーダーシップ能力がリーダーとして将来役に立つと思います。それ以外が一番日本とアセアン諸国の架け橋のリーダーに役に立つのが問題解決能力だと思います。ワークショップを通して、問題を探し、その問題をどうやって解決するかアセアン友達、日本人の友達と一緒に考えました。つまり、一人ではなく、グループでの問題解決能力がアップしました。様々な国からの人と問題を解決できれば、架け橋がどうやって強くするかはもう難しくなくなれるでしょう。

写真： 過去に開催されたワークショップより



チャン・ティ・ズイ・ゴックさん(アスジャ・ベトナム国費留学生・明治大学大学院)

この事業で、日本の大学生と交流して、日本や日本人に対するイメージはどのように変わりましたか。

本事業でチームワークはもちろん、事業をどのようにうまく運営するのも勉強になりました。具体的は次のようです。

チーム内では、各メンバーがそれぞれ専門分野や英語レベルや作業のペースも違うことは当然のことです。したがってチームメンバー全員の強みを分かって活かせる発見力が必要だし、皆さんに徹夜させるより効率的なスケジュールをきちんと立て従うことも大事だと思います。幸いことにうちのチームではこれらの点について分かりあってうまく進んでいました。

そして、個人的にとっては何より価値のある学びは、実行委員会の姿勢と働き方です。企画立てや用意資料から実行作業までしっかり行うことで、イベントを無事に成功させました。

活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

一番印象に残ったエピソードは日本人のKさんのエピソードでした。一番最初の時、彼が自分の英語能力に全然自信を持っておらず、英語での交流をあまりしていませんでした。だが、テーマのディスカッションのセッションに入ったら、彼が本当に別人のように変わりました。英語の語彙が足りないため自分の発想を言葉で説明しきれない彼が、図像やボディーランゲージを使ったりして相手に伝えるように尽力していました。その彼に私たちが「通訳しましょうか」と申し出ましたが、彼が「いや、一人で頑張りたい」と答えました。そして、最後の最後、彼がだんだん自信を持つようになり、自分の大きな夢をみんなの前に胸を張って発言できるようになりました。4日間を通して、毎日、いや、毎時間で彼の変化を見えてきて、自分も刺激を受けています。

将来、日本と自国、日本とアセアン諸国の架け橋のリーダーとなるために、この事業で学んだことはどのように役に立つと思いますか。

まず実行委員会が配布してくれた資料(主にガイドブック)などを真剣に研究し、イベントの流れの中に注意すべきなところとクライマックスになるところを参考にし、将来もし自分でこのようなワークショップを自国でするならより効率的に実施できると思います。そして、ワークショップに参加してアセアン諸国の強みや特徴をより理解でき、アセアンコミュニティへの貢献の精神も自分の肌で実感できるようになりました。これから先、もし機会があればこのようなワークショップを開き、自国の若者によりアセアンコミュニティと自分の国の位置付けを解ってもらいたいと思います。そしてワークショップで社会・政治・経済の問題へ関心を持って、解決策を提案することで若者たちが責任感と達成感と自信も得られると信じています

印象に残ったのは、参加しているASJA生の年齢やキャリアが様々だったことです。私は過去にも、何度か外国人留学生と交流する機会がありましたが、一緒に活動する相手は同年代の学生のみでした。しかし、このワークショップでは、高校を卒業してから現在日本へ留学している同年代の学生はもちろん、一度母国で会社に勤めてから日本へ留学に来ているASJA生もいます。彼らの今までの経歴を聞くと、実に多様な理由で母国と日本のことを思い留学しに来たことが分かり、非常に刺激を受けました。そして、参加後はASEANの文化を知るという面だけでなく、自分の将来のキャリア選択の視野も広がりました。



とても濃い4日間になること間違いなしです。私は英語もろくにできないし、誰も知り合いがない状況で参加をしました。不安で仕方なかったですが、1日目のお昼からASJA生と日本人学生と大笑いしながらランチをして、ディスカッションでもたくさんの人が助けてくれて、ついていくことができました。ハードスケジュールではありましたが、みんなと共に過ごす時間が楽しすぎて、あっという間の4日間で、足りないくらいでした。

完璧でない私の英語も、みんなが読み取ってくれて、とにかく使うことでスキルアップにつながったと思います。日本で、毎日英語が使えまた、これからも仲良くしたいと思える友達にも出会え、最高の時間でした。

今回のワークショップで最も重要な経験は、留学生とのグループワークだと思います。考えを伝えるという当たり前のことが文化の違いによって正しく伝わらないということが多々ありました。また、英語で話そうとすることで、日本語では簡単に伝えられることもうまく伝わらないと実感しました。こう言ったことは経験を通じてではわからないものです。そして、経験したからこそ逃げずに留学生との議論をする自信も得られました。



参加者の感想(日本人学生)

2日目に行ったアクティビティーが非常に楽しくて、記憶に残っている。また、アクティビティーが終わった後の時間にグループも関係なくみんなで鬼ごっこをしたことが印象的だった。また、非常に辛かったが、ディスカッションが終わった後の深夜にグループで談話室に集まってプレゼンテーションに向けての準備を進めた事も同様に印象深い思い出になった。なぜかという、これを通して、たった一つのプロジェクトを話し合い、協力して作るのが非常に大変な事であると痛感したから。



ディスカッションのときに、ASEAN留学生が積極的に議論している中、日本人学生がほとんど発言や質問もできずに終わってしまった時間が少しありました。その際に後から心配して、一人のASEAN留学生が私のところに来て、どのようなところが分かりにくかったか、何か発言しにくくしてしまっている雰囲気がなかったか、気遣ってくれたのがとても印象的でした。このようにASEAN留学生が積極的に日本人学生を理解しようと声をかけてくれた場面がたくさんあり、本当に感謝しているとともに、自分ももう少し周りを気遣う余裕を持てるように、これから語学力や知識をさらに身につけたいと強く思った場面でもありました。



全体でのプレゼンテーション発表の場で、印象に残った出来事が二つあった。一つ目は、各プレゼンに対するASJA生の質問力の高さだ。一つ一つのテーマに関して、自身の研究分野を生かしながら、鋭く、的確な質問をする。自分の母国語ではない英語という言葉で、はっきりと明確に意見を述べる事が出来るのは、ASJA生の能力の高さを間近で見ることが出来たと思う。将来的に、あの質の高い質問をしたASJA生のように、私も自身の研究をしていきたいと思う。また、二つ目は、グループワーク中のASJA生の態度である。決して英語が得意ではない私たち日本人に対して、分かりやすく、そしてゆっくりと英語を話してくれた。その時のASJA生の優しさや、日本人への思いやりの心に感銘をうけた。わからないといったときに、手厚くサポートしてくれたASJA生の姿は、私にとって、このワークショップをもっと頑張ろうと、勢いづけてくれるものだった。



この事業を通じて、この事業に参加するまで持っていなかった新たな視点を持つことができました。それまで日本とASEANも含めアジアでは、価値観や環境に置いて差がある事は、高校の歴史の授業やその他の実生活に置いて得た知識で頭では理解していました。しかしながら、実際にASEANの人達とこのワークショップを通じて話をしたり、共同でプロジェクトを進めるに当たって価値観や環境の差を体で実感しました。



食事や運動をする前のチームでは、お互いの事をあまり知らないと言う事もあり、テーマを決める話し合いにおいて、互いに遠慮し合うまく話しが進みませんでした。しかしながら、食事や運動を一緒にした後の話し合いでは、活発な話し合いができました。このことを通じ、食事や運動を一緒にする事の重要性を身に染みて感じました。



私は、英語が得意ではありませんが、留学に行っている友人にこのワークショップを勧められ、参加しました。参加するまで、不安でいっぱいでした。英語で全く困らなかったと言うのは、嘘になりますが、私が英語が苦手という事もあり、これを伝えたいと言う時には皆が一瞬懸命耳を傾けて理解してくれたおかげで、さほど英語で困る事はありませんでした。なので、英語が苦手な人も恐れなくてください。



国の文化や環境の違う優秀な人達と一緒にプロジェクトを作っていくことは、ここ以外で体験できる事ではありません。英語というだけでこのワークショップを敬遠してしまうのは、勿体ないです。短い期間ですが、大変貴重な体験ができます。



参加者の感想(日本人学生)

ディスカッションでは語学力の面もあってやはりASEANの学生の方がリードし、日本の学生が口をはさむことが難しい場面がありました。英語力に加え話し合いにおける力の差がこれほどまでかと感じさせられたとも苦くも印象が強い経験でした。

ワークショップの主軸となる日本人学生とアスジャ生とのグループワークにおいては、そもそも日本語で議論するのも難しいワールドワイドなテーマを扱いました。議論の中で、アスジャ生の経験値の高さを感じるとともに、多方面から集まった日本人学生の問題解決力の高さや、環境への適応力などに驚きました。これは、同じ大学に通う友達との付き合いだけでは得られない貴重な感覚だと確信しました。



今回のワークショップにて、最終発表に向けての話し合いの時に、ASEAN生も日本人学生も今の2国の現状をしっかり把握し、積極的に意見を発信する姿を見て、私は自らの国際情勢に関する知識と、それに対する自分の見解が非常に薄いことに愕然としました。その後は必死に追い付こうと努力し、3日間のプレゼン準備期間に今までと異なる目線でASEANと日本を分析する視野が身に付きました。

1年生の頃に参加した際に、自分の至らなさを自覚し、3年生で参加した際には、また違う友人ができ、彼らからも学問としての学びだけでなく、学問だけでなく、全ての事に対する学ぶ姿勢というもの学びました。短期間でも参加するかしないかで今後の自分自身に対する姿勢も大きく異なってくると思うので、参加を迷っている方がいらっしゃったら、とりあえず参加を選んでいただきたいなと思います。必ず何か学ぶところがあるはずです。



多くのASJA生は、自国の大学を卒業し、社会人を経験している方もたくさんいらっしゃって、仕事のことや将来のこと、夢などを話したときにとても刺激を受けました。夢があって、国費留学生として今日本で学んでいるのだと思うと、自分も頑張ろうと励みになりました。



皆が議論していることに追いつこう、またそれを自分の中で整理しようとして、議論の最中、メモを取ることに必死になっていました。自分の中では、今回の議論で自分はあまり役に立っていないと思い落ち込んでいたのですが、あるときこのメモが皆のアイデアを整理する際に役に立った場面がありました。その際、あるメンバーが私のメモをこまめに取りの姿勢を褒めてくれました。今まで自分ではメモを取ることが自然なこと、得意なこととしては認識していなかったのですが、その時初めて、これが人の役に立つ長所となりうるのだと気づくことができました。



英語に自信がなくても、話そう・理解しようという気持ちがあれば心配いりません。しかし自分に甘えてはいけません。英語を使う良い機会ですのでそれを無駄にしないでください。正直、こんなに密度が濃く、頭を働かせた4日間は初めてでした。一人一人が最後のプレゼンに向けて努力したからこそ、それをやり遂げたあとは皆達成感でいっぱいでした。一人ではなく皆でやり遂げたということに意味があると思います。



こんなにも多国籍な人々と一緒に議論を尽くし、仲良くなる機会が減多にない貴重なものだと思います。3泊4日基本的に英語ばかりを使用するので、へとへとになるのは確かです。しかし、こんなにも脳を振り絞って考えることを大学生である今のうちに体験することができて良かったと思います。



最終日に発表するプレゼンは、4日間グループで一生懸命作り上げたかけがえのないものになります。自分にかけているところを実感させられ大変有意義な4日間になるので、留学や文化、英語、ASEANなど少しでも興味があったら参加してほしいです。

グループのメンバーは全員が異なる専攻であり、専門知識や能力がそれぞれ異なっていたのでそれらをうまく発揮するために工夫する力も得られたと思います。

参加者の感想(日本人学生)

最終日のプレゼンテーションのための準備を深夜まで自主的に集まり、行いました。今までこのような一つのことを短期間で仕上げるために泊りがけで集中して取り組むという機会があまりなかったのが、今振り返っても本当に骨の折れる4日間でしたが、自分たちの意見、アイデアを今回参加した多くの学生に知ってもらいたいという一心で最後までグループ全員で協力しあいながら行えたのが自分にとってすごく印象的で貴重な体験でした。



自由時間にみんなで目つぶり鬼ごっこをしたのが印象に残っています。とても久しぶりにやったのですがとても楽しかったです。またプレゼンの時間が厳しく計られていて、最後ぎりぎりになってしまったのですが、最終的にはぴったりに終わらせることが出来てうれしかったです。



プレゼン後のQ&Aは日本のスタイルとは大きく違い、鋭い質問や、批判的な意見なども飛び交い、非常に印象的だった。日本ではQ&Aの時間が静まり返ってしまうのをよく見かけるが、彼らは聞くときも常に何を質問するか、論理に破綻はないかなど冷静に批判的に聞いていたようである。この姿勢はぜひ見習っていきたいと感じた。

ラジオ体操を教えた後に、今度はラオスのダンスを教えてもらいました。その他にも、食事の時間に異なるチームの人と交流したりして、多くのアセアン文化を知ることが出来ました。異文化交流がしたいという目標をたてていたので、達成出来てよかったです。



3泊4日という非常に短い時間でしたが、とても濃密で有意義な時間を、とても良い仲間たちと過ごすことができました。私は留学後にこのワークショップに参加しましたが、参加してとても良かったと思っています。

一番の理由としては一生ものの仲間に出会えたかなと思うためです。普通に大学生活をしていたり、普通に生きているだけではなかなか出会えないような、面白い夢や経験を持った人たちがたくさん参加しているため、自分自身も彼らから学ぶことがたくさんありましたし、ワークショップ自体もとても勉強になりました。



東南アジア、日本の学生も含めて、いろんな意見を聴くことができました。各々が何を学んできて、何を考えているのか知ることができた。また、学生全体の中での自分の位置づけを知るいい機会にもなった。



はじめは事業を考えることがどのようなことなのか想像もつかず、なにから考えればよいのかも全く分かっておらず、プレゼンテーションも久しぶりでやり方すらあやふやな状態でしたが、グループのメンバーたちと協力して何とか完成させることができ、達成感も味わうことができました。自分のグループだけでなく、ほかのグループの発表を聞いていく中でも勉強になることや参考になることがたくさんあり、とても得るもの大きいグループ発表になったと思います。

私は英語力が不足していたこともあり、初日のグループワークではチームのみんなが議論している話の内容に付いていくのが精いっぱい、自分の意見を言う余裕がありませんでした。このままでは自分の成長につながらないばかりでなく、チームの役に立つことができないと焦りを感じていました。しかし、2日目のグループワーク時にASJA生から一度日本語で全体の内容を確認してみようと提案されたことによって、一度頭の中を整理し自信を持って発言できるようになったため、その後の議論を有意義なものにすることができました。チームの優しさを感じる一方で、もっと英語力を上げたいと思った出来事でした。

過去のワークショップの様子



過去のワークショップの様子





写真：2018年度開催のワークショップより

Schedule

スケジュール

1 日目 2019年8月29日(木)

午前	国立オリンピック記念青少年総合センターに集合
	オリエンテーション
	アイスブレイク :参加大学生による自己紹介
午後	ワークショップについて説明 ①ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションのテーマについて ②ワークショップのスケジュールについて
	レクチャー：日本とアセアン アセアン加盟10カ国、基本データ、歴史、アセアン共同体、日アセアン関係について
	グループワーク ①ステップ1:テーマの理解と問題点の確認作業、グループ内での役割分担決定 ②プレゼンテーションのテーマと、グループワークの進め方についてプレゼンテーション
夜	夕食を兼ねた交流会
	グループワーク ステップ2:問題の解決策を話し合い、提言をまとめる

*スケジュールは2019年6月15日現在のものであり、今後変更する場合があります。

2日目 2019年8月30日(金)

午前	エクササイズ&レクリエーション大会 身体を動かしてグループワークで疲れた頭を休め、他グループのメンバーとも交流を深める。
午後	グループワーク ステップ2:問題の解決策を話し合い、提言をまとめる。全体発表会準備
夜	グループワーク ステップ3:レジュメ作成、リハーサル、全体発表会前の最終準備等

3日目 2019年8月31日(土)

終日	全体発表会 各グループによる発表、質疑応答、考察、講評等
----	--

4日目 2019年9月1日(日)

午前	クロージング 4日間を振り返りまとめ ワークショップ全体への考察、今後の課題について 写真撮影、片付け等 全プログラム終了、解散
----	---

*スケジュールは2019年6月15日現在のものであり、今後変更する場合があります。



写真:2018年度開催のワークショップより



写真：2018年度開催のワークショップより

募集要項

実施概要

- 名称 アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップ
- 期間 2019年8月29日(木) ～ 9月1日(日)・4日間
- 場所 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)
- 主催 アスジャ・インターナショナル
- 参加者 (1) 将来のアセアン各国リーダーをめざすアセアン国費留学生(アスジャ受入れ学生)30名
(2) 日本のグローバル人材として活躍を期待される日本人大学生・大学院生30名

日本人学生の参加資格および条件

1. 日本の大学・大学院に在籍し、将来のグローバル人材を目指していること
2. 心身ともに健康であり、ワークショップ参加に支障がないこと
3. ワorkshopに参加できる日常会話レベルの英語力を有し、アカデミック英語を学ぶ強い意欲があること
4. すべてのワークショップに参加できること(日程の一部だけの参加は認められません。)
5. プログラム終了後、A4サイズ1枚程度のレポートを提出すること(提出できない場合は、アスジャ事務局が支弁した費用の一部を返納する必要があります。なお、レポートはアスジャ・インターナショナル関係者に配布されます。)

申込方法

- ◆ 所属大学の担当窓口での受付後、「申込書」をアスジャ・インターナショナル事務局まで提出してください。
- ◆ 書類選考の上、参加者を決定いたします。

アスジャ・インターナショナル事務局への申込書提出締切

2019年7月18日(木)必着

問い合わせ先

アスジャ・インターナショナル事務局

〒169-0074 東京都新宿区北新宿3丁目22番7号

独立行政法人日本学生支援機構 東京日本語教育センター内

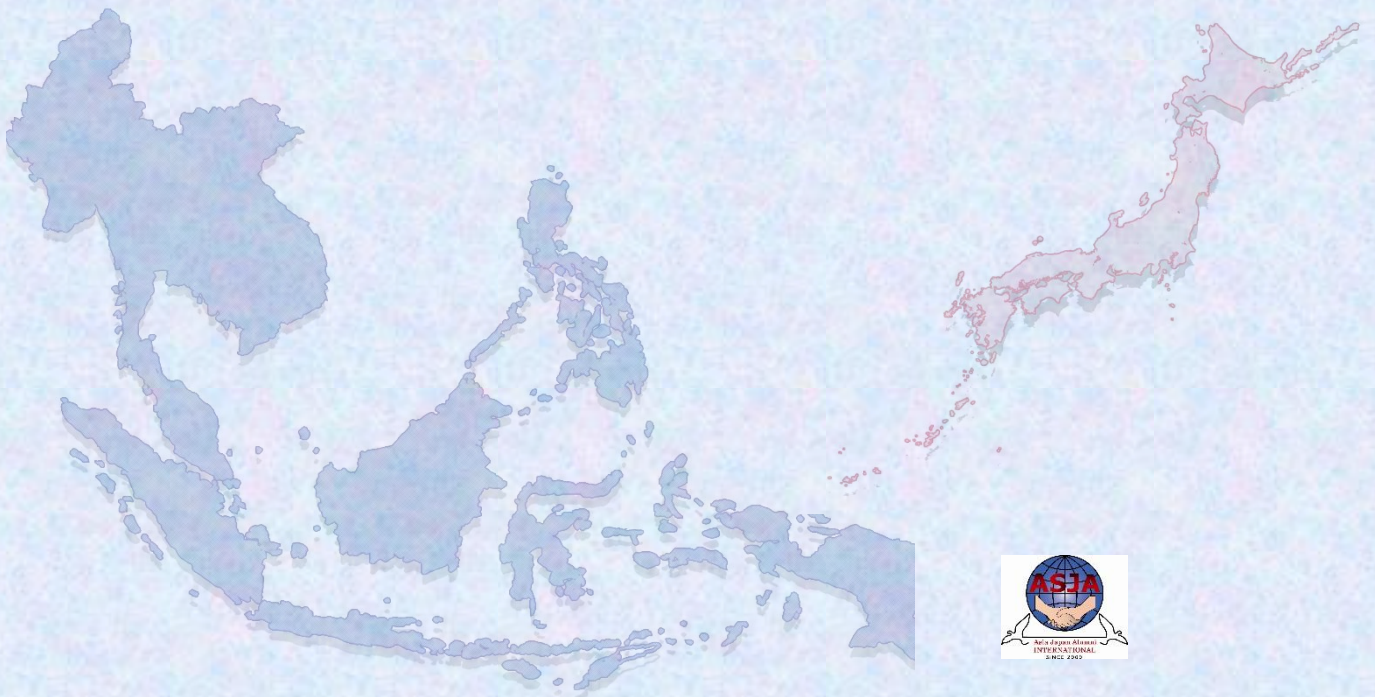
電話： 03-5338-1285 / FAX: 03-5338-1286

Email: info@asja.gr.jp

担当： 萩原（ハギハラ）

写真： 2018年度開催のワークショップより





**ASJA International Exchange Workshop for
ASEAN-MEXT Scholarship Recipients and Japanese University Students**

令和元年度アスジャ・インターナショナル主催
アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップ募集要項
2019年6月15日発行

発行者：アスジャ・インターナショナル
〒169-0074 東京都新宿区北新宿3丁目22番7号
独立行政法人日本学生支援機構 東京日本語教育センター内